

地域カルテの見方

B中学校区 地域カルテ

1.人口・世帯数(住民基本台帳)

過去5年間の人口動向を把握

年少人口 生産年齢人口 老年人口

年齢3区分別人口

	総数	男	女	年齢3区分別人口				世帯数	1世帯当たり 世帯人員
				0~14歳	15歳~64歳	65歳以上	うち75歳以上		
2011年	12,026	5,915	6,111	1,502	7,414	3,110	1,500	4,597	2.62
		49.2%	50.8%	12.5%	61.6%	25.9%	12.5%		
2016年	11,417	5,596	5,821	1,289	6,582	3,546	1,743	4,634	2.46
		49.0%	51.0%	11.3%	57.7%	31.1%	15.3%		
増減	-609	-319	-290	-213	-832	436	243	37	-0.15
	-5.1%	-5.4%	-4.7%	-14.2%	-11.2%	14.0%	16.2%		

2.人口推計

今後、20年の人口動向を把握

	総数	男	女	0~14歳	15歳~64歳	65歳以上	うち75歳以上
2021年	10,702	5,220	5,483	1,086	5,974	3,643	1,894
		48.8%	51.2%	10.1%	55.8%	34.0%	17.7%
2026年	9,909	4,806	5,103	945	5,446	3,517	2,113
		48.5%	51.5%	9.5%	55.0%	35.5%	21.3%
2031年	9,082	4,379	4,703	858	4,892	3,332	2,079
		48.2%	51.8%	9.4%	53.9%	36.7%	22.9%
2036年	8,241	3,954	4,287	764	4,252	3,225	1,908
		48.0%	52.0%	9.3%	51.6%	39.1%	23.2%
2016-2036 増減	-3,176	-1,642	-1,534	-525	-2,330	-321	165
	-27.8%	-29.3%	-26.4%	-40.8%	-35.4%	-9.0%	9.5%

2段となっている行は上段が実数、下段には総数に対する割合を記載。
また、増減欄には、5年間の増減数、増減率を記載。

2011年から2016年の5年間の状況がそのまま続くかどうかという仮定のもと中学校区の将来人口を推計。
(推計方法は地域カルテ留意事項を参照)

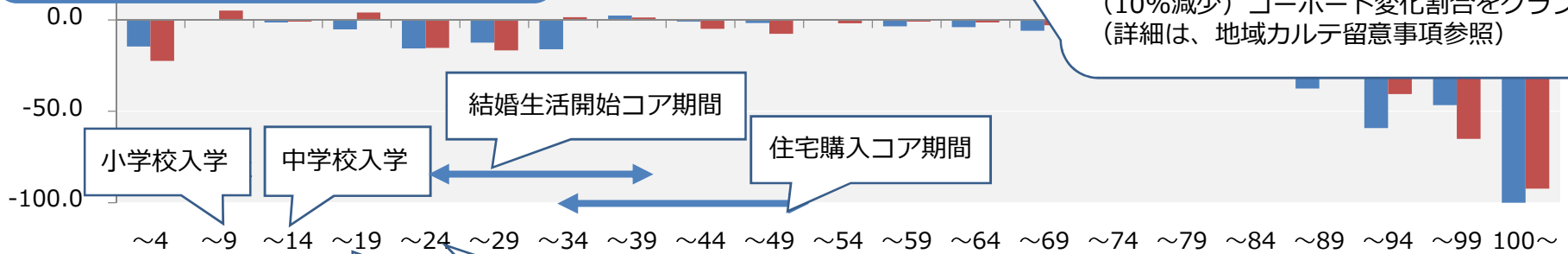
- 人口は、2016年に11,417人から2036年には8,241人と27.8%減少する。
- 老年人口は、2021年に3,643人でピークを迎え、その後減少していくが、老年人口割合は31.1%から39.1%に増加する。
- 年少人口は、2016年の1,289人から2036年には764人となり、40.8%減少する。
- 生産年齢人口は、2016年の6,582人から2036年には4,252人となり、35.4%減少する。

3.人口推計グラフ

2011年と2016年を比較し、どの年齢階層で増減（転出入）しているのかを把握

① コーホート変化割合2011⇒2016

例えば、2016年、Aさんが属する5～9歳の年齢階層の人数（90人）と、5年前の2011年にAさんが0～4歳だった年齢階層の人数（100人）とを比較した場合、その増減率（10%減少）コーホート変化割合をグラフ化（詳細は、地域カルテ留意事項参照）



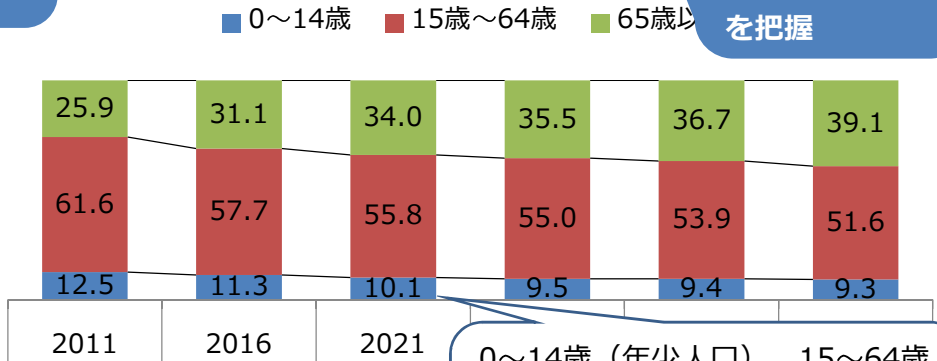
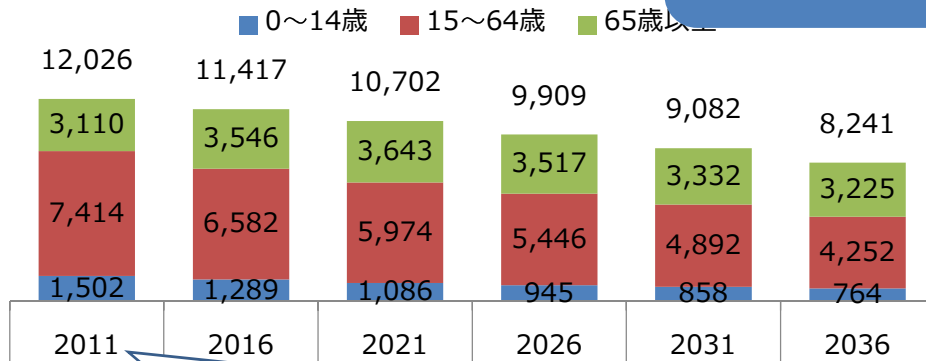
- 就職に至る20～24歳の年代においても変化割合が1割以上のマイナスとなっている。
- 変化割合が大きくプラスとなっている年代はないが、35～39歳がプラスとなっており、5～9歳人口のプラスの要因のひとつと考えられる。

② 年齢3区分別人口推移

総数、年齢区分別人口がどのように変化するかを把握

③ 年齢3区分別人口割合の推移

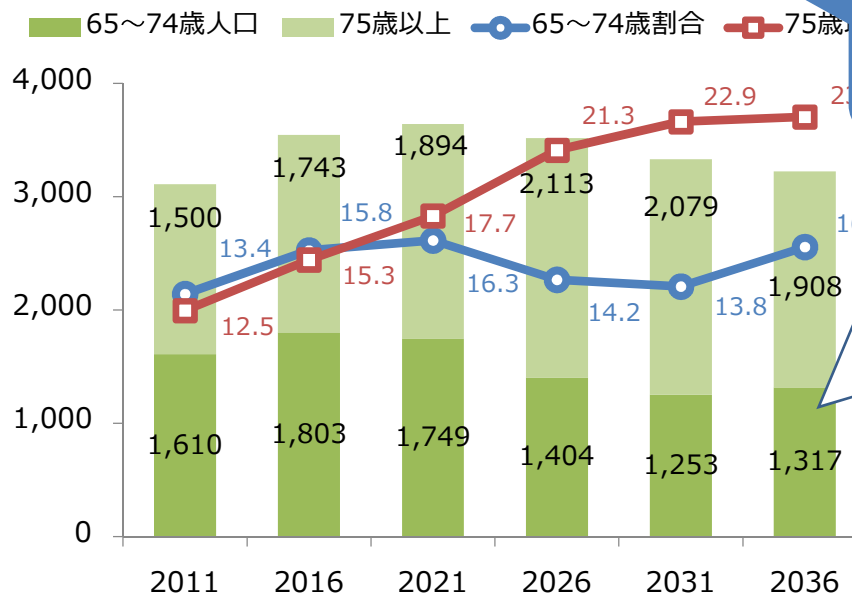
年齢区分別の構成割合がどのように変化するかを把握



0～14歳（年少人口）、15～64歳（生産年齢人口）、65歳以上（老年人口）の人数をグラフ化。グラフの上には総数を記載。

0～14歳（年少人口）、15～64歳（生産年齢人口）、65歳以上（老年人口）の割合をグラフ化 2021年以降は推計。

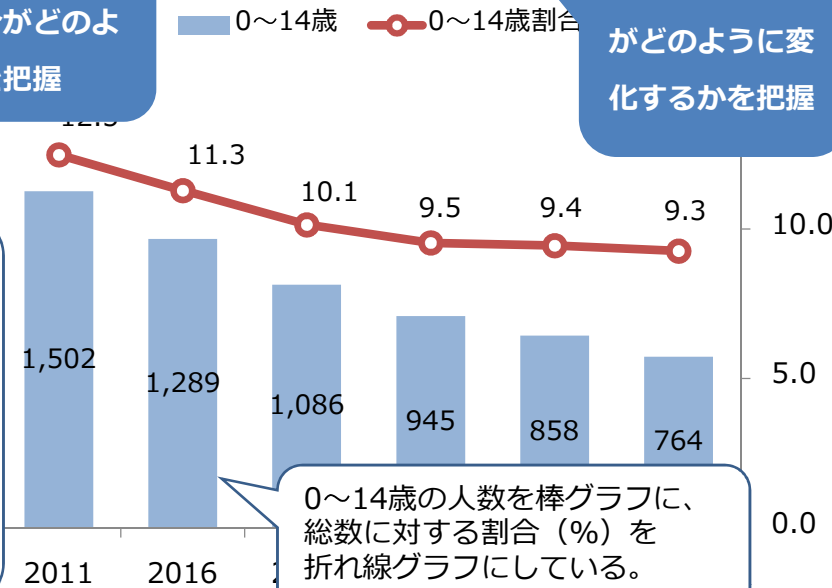
④ 高齢者人口の推移



65~74歳、75歳以上の高齢者の人口、割合がどのように変化するかを把握

65歳以上の高齢者を65歳~74歳と75歳以上の人数に分け、人数を棒グラフに、総数に対する割合(%)を折れ線グラフにしている。

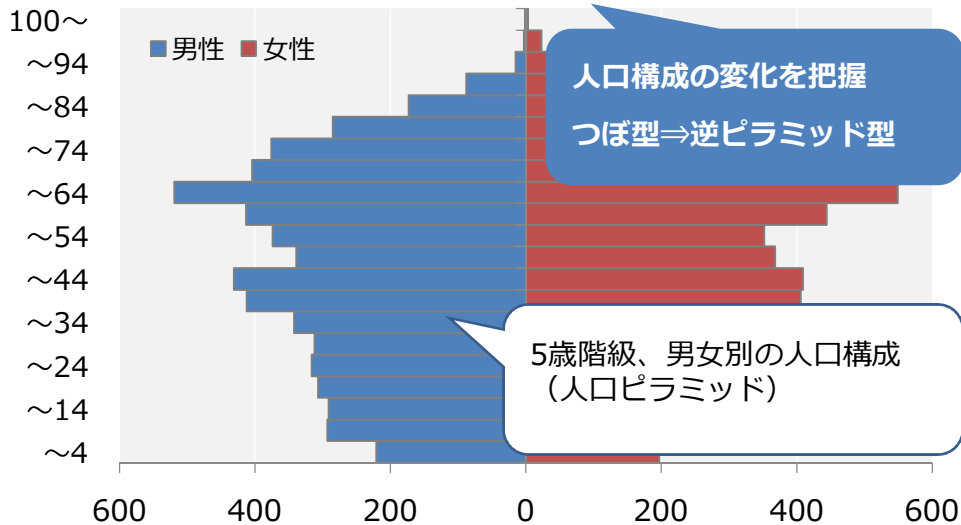
⑤ 年少人口の推移



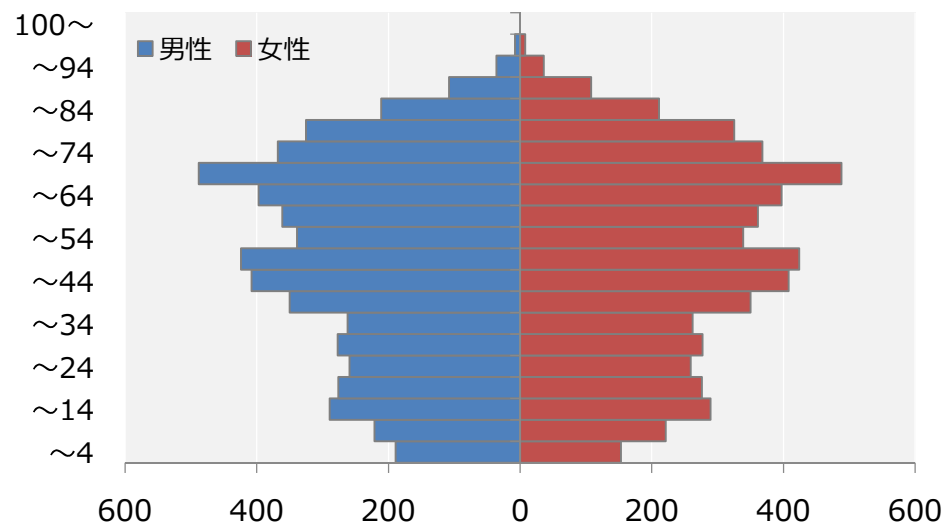
年少人口、割合がどのように変化するかを把握

0~14歳の人数を棒グラフに、総数に対する割合(%)を折れ線グラフにしている。

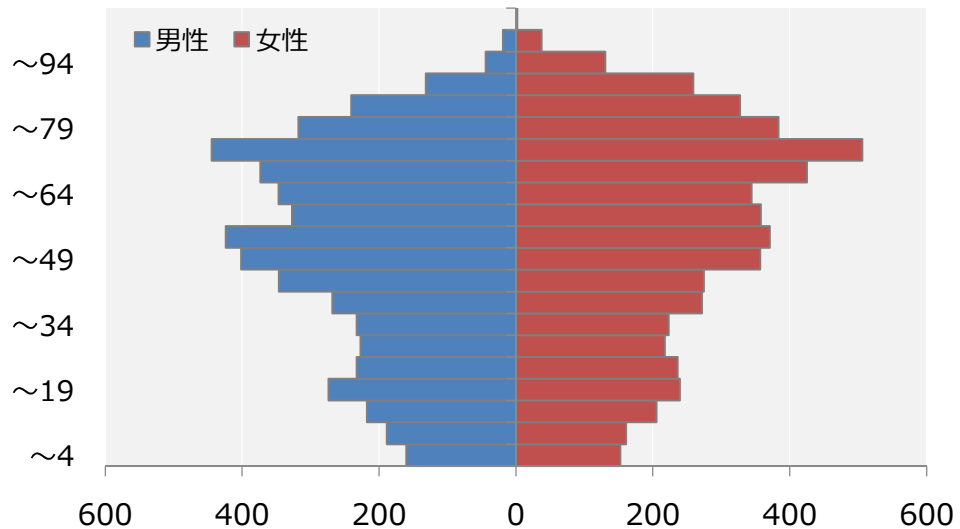
⑥ 2011年人口ピラミッド



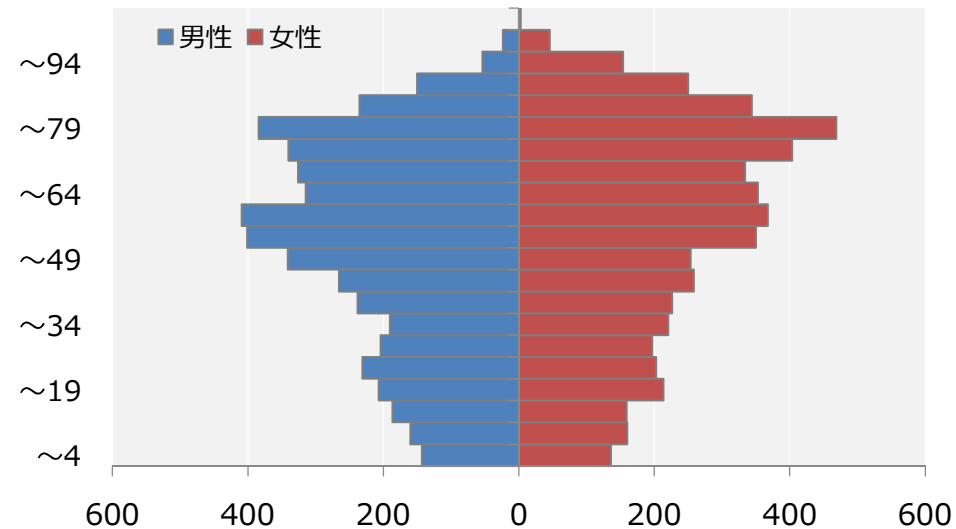
⑦ 2016年人口ピラミッド



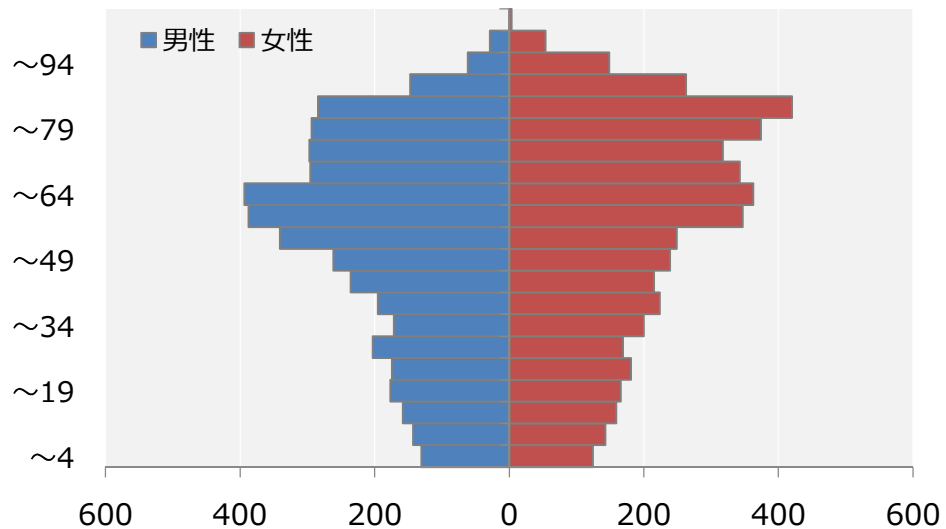
⑧2021年人口ピラミッド



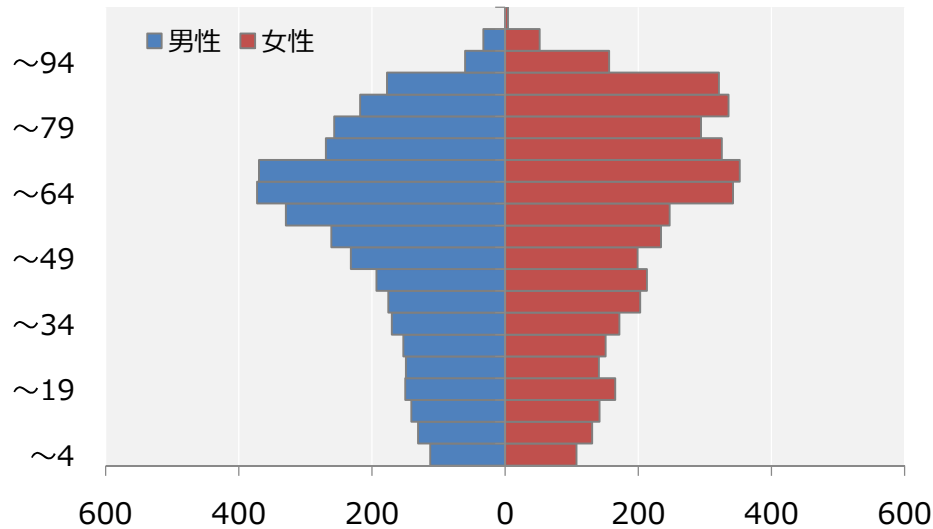
⑨2026年人口ピラミッド



⑩2031年人口ピラミッド



⑪2036年人口ピラミッド



B中学校区

(参考) 地域カルテ留意事項

1. 推計に使用するデータ

○2011年、2016年9月末の住民基本台帳人口を中学校区単位に加工

2. 推計方法

○2016年と5年前の2011年の男女5歳刻み人口を用い、コーホート変化率を求め、その変化率が将来も継続すると仮定し、人口を推計するコーホート変化率法を用いている

○出生率については、20～39歳女性人口に対する0～4歳人口比を用い、その比率が将来も継続すると仮定し、推計

3. コーホート変化率について

○コーホートとは、同期間に出生した集団のこと（このカルテにおいては男女別の5歳刻みの年代）

○2011年に15～19歳だった人は、2016年には20～24歳になっている。15～19歳が20～24歳に移行する際の増減率（コーホート変化率）が将来に渡り継続すると仮定し、男女別で計算し、推計している

	15～19歳	20～24歳
2011	100人	
2016	80人	90人
2021	75人	72人
2026		68人

2011年から2016年のコーホート変化率
 $90/100=0.9$ (10%減少)

2011年から2016年のコーホート変化率を適用し、2021年の20～24歳人口を算出
 $80 \times 0.9 = 72$

【留意点】

- 実際の人口推移と人口推計は、人口規模が小さくなるほどかい離が大きくなる
- 2011年から2016年に人口が大幅に増えた中学校区では、将来もその増加率がそのまま適用され、実際にはこの傾向が継続しないことが想定されるため、実際の人口推移とのかい離が特に大きくなる。(例：大規模な住宅開発など)
- 外国人登録法廃止・住民基本台帳法改正の施行により2012年7月以降の住民基本台帳人口には外国人が含まれている
- 複数区にまたがっている中学校区は人口が多い区に分類(例：東新潟中学校区は東区と中央区にまたがっているが東区に分類)
- 校区情報が設定されていない住基データ(校区不明者)があり、中学校区の合計と区の合計が一致しない
- 推計した男女年齢階層別の人口は小数点を四捨五入していることから、総数と一致しない場合がある